

リベリア  
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト  
現地からのお便り

2016年8月  
コンサベーション・インターナショナル

保全契約

今期は、これまでコミュニティと議論し、特定してきた保全活動と便益を詳細化し、保全契約に落とし込むという活動に集中しました。その結果、東ニンバ自然保護区の境界近くに住む Gbopaye と Yolowee というコミュニティとの交渉を完了させることが出来ました。現在、9月に予定されている署名に向けた準備をしています。署名の後、コミュニティと CI は、保全契約を通じて、村の持続的な発展に向けた取り組みを開始します。保全契約は、毎年見直し、状況に応じた変更を加えていくことになります。

便益を受取る条件として、以下の保全活動に両コミュニティと合意しました。

- 東ニンバ自然保護区内での非木材林産物の採取をやめる
- 東ニンバ自然保護区内での狩猟をやめる
- 東ニンバ自然保護区周辺の森での保護対象種の狩猟をやめる
- 東ニンバ自然保護区内での農業活動をやめる
- 東ニンバ自然保護区内および周辺の森での火の使用をやめる
- 非持続的な漁法（例えば、蚊帳、ダイナマイト、毒の利用）をやめる
- 東ニンバ自然保護区の保全を強化するための森林管理活動に参加する

一方、便益としては、Yolowee コミュニティは、水田を、Gbopayee コミュニティは水田とパーム油生産を希望していました。しかし、既に雨季が始っており、今年は水田を始める時期を逸してしまいました。何度も話し合いを重ねた結果、家畜飼育と後述のフロントライン保護官を保全契約の下での生計開発プロジェクトとすることに両コミュニティと合意しました。



この地域の多くのコミュニティがまだ森での狩猟に食料を頼る



保全契約の交渉に参加している Yolowee コミュニティのメンバー

## フロントライン保護官

保全契約は、狩猟行為を大幅に制限します。Yolowee と Gbopayee コミュニティには、これまで、狩猟を生業としてきた猟師が全部で 33 人います。彼らにとっては、大きな損失です。また、保全活動は、コミュニティの猟師以外の人々のこれまでの行動を変えることを求めます。保全活動として約束した内容を全員が守り、翌年以降もコミュニティが便益を受けるためには、守ることを後押しすることが重要です。フロントライン保護官としてトレーニングすることで、元猟師は、代替収入源と森の守り人としての新たな役割を得ることになります。保全契約に定められるフロントライン保護官の任務は、以下の通りです。

- 東ニンバ自然保護区の周りを見回り、同時に生物多様性に関するデータを収集する
- 住民と野生動物の間に
- コミュニティ内での保全と持続的管理に関する普及啓発を行なう



東ニンバ自然保護区の中の  
猟師



フロントライン保護官としてのトレーニングを開始した他の  
コミュニティの元猟師